

日本遺産

2019.2.9 ニッポンたからものプロジェクト



司会のユージさんと菊池川流域日本遺産についてトーク。
タレントのユージさん、でかいです!



2月9日、山鹿市の八千代座で「ニッポンたからものプロジェクト」の公演が行われました。これは文化庁と芸能団体の協議会が主催し、日本遺産と日本芸能のライブがコラボするというもの。これまで、日本遺産の各地で開催されており、この山鹿公演では菊池川流域日本遺産ということで、プログラムの中の日本遺産トークにNPO法人高瀬蔵の理事として出演しました。高瀬蔵の法被をまとめて高瀬蔵もしっかりアピールしてきましたよ。(清水千尋)

高瀬蔵受付スタッフ募集!

高瀬蔵では、土日勤務できる受付スタッフを募集中です。
詳しくは、ハローワーク (☎72-8609) か受付 (☎72-2480) まで。

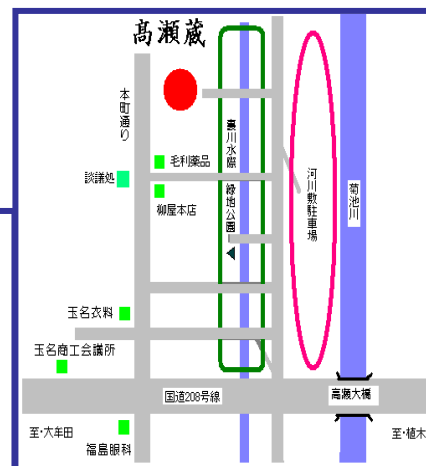
会員の皆さまへのお願い

日頃より会員の皆さま方にはNPO法人高瀬蔵の事業運営につきましては、ご支援とご協力を頂きありがたく感謝申し上げます。本年度で開館14年目を迎えますが、会員やスタッフの減少が懸念される所です。つきましては、会員の皆さまより新規会員加入やボランティアスタッフのお誘いを頂きますようお願いいたします。



NPO 法人 高瀬蔵

熊本県玉名市高瀬 155-1 (〒865-0025)
TEL・FAX 0968-72-2480
E-MAIL takasegura@aria.ocn.ne.jp
URL <http://www.tamana-cci.or.jp/NPO/indexf.html>
開館時間 10:00~24:00(イベント開始時間により変更あり)



恒例
高瀬蔵ガラクタ市
を開催しました!!



高瀬蔵の定番イベント、「高瀬蔵ガラクタ市」。今年度も1月27日に開催しました。前日からの寒波にもかかわらず、開店前には10数人のお客様に並んで開店を待っていただき、感激でした。午前中は、遠くは熊本、植木などから来られたというお客様方が楽しそうに品定めをし、買い物をされる姿で賑わいました。ひまわりテレビの取材カメラも入り、数日後の放送を見ていただき、来年の来場につながればと期待する所です。多数の商品を提供していただきました会員の皆様、ありがとうございました。ガラクタ市はNPO法人高瀬蔵の自主事業として毎年度実施しているものですが、その収益はNPO法人の大切な収入として運営に役立てられています。そこで次回開催に向けて、会員の皆様に商品提供のお願いです。皆様のご家庭に眠っている贈答品やいらなくなったけどまだ使えるなあ、という品物がありましたら、ご提供いただきますようお願いいたします。お客様の品定め次第で意外なものが売れてびっくりすることも。随時受け付けていますので、受付までお申し出ください。(猿渡公予)



NHK大河ドラマ「いだてん」パブリックビューイングを開催

1月13日夜8時から、NHK大河ドラマ「いだてん」第2話のパブリックビューイングを開催し、20人ほどの参加がありました。

いよいよ主役の金栗さんが登場、第2話ではその生い立ちから成長の過程が描かれていました。高瀬船着場跡に組まれた大がかりなセットで、市民がエキストラの間を縫って勘九郎さんが走るシーンには皆大喜び。ほかにも熊本城、田原坂、河内のミカン畑、二俣橋など見慣れた熊本県内の風景が続々と出てきて、楽しいひと時を過ごすことができました。この様子は1月15日の熊本日日新聞でも報じられました。

2月24日夜8時から「いだてん」第8話にあわせて開催。30人ほどの皆さんが集まりました。

この日は綾瀬はるかさん演じる春野スヤさんが池部家にお嫁入りする場面が放送されるとあって、皆さんの期待が高まっていました。玉名市指定史跡「高瀬船着場跡」に大がかりなセットを組んで、多くの市民エキストラが参加したシーンでしたが、放送ではほんの一瞬。でも、知っている顔も見えて皆さん大喜び。楽しいひと時を過ごしました。

鑑賞会の後は「玉名遺産を活かす会」との共催で、「いだてん」の舞台となったことを機に、市の活性化を図っていくための意見交換会を行いました。(竹田宏司)

【 会費納入のお願い 】

平素はNPO法人高瀬蔵の運営に格別のご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当法人の運営は、その大部分を皆様方からの会費により支えられており、貴重な財源となっております。つきましては、今年度の会費の納入をお願い申し上げます。

玉名の文化・地域団体で川尻を見学 外城蔵に感銘

2月16日、文化部会のよびかけで「いにしへの川尻を見学しよう」とのふれこみで4つの玉名の文化・地域団体合同の史跡見学および地元の文化団体との意見交換会をしました(参加者は8名)。

史跡めぐりは2月から3月にかけて開催中の「かわしり春ものがたり」のイベントの一つで、天保3年(いまから187年前)の町絵図をたどりながらの史跡探訪でした。

町絵図には奉行所、侍屋敷、御船手渡し、町家群、寺院、米蔵、御茶屋などが精密に描かれ、いにしへの川尻のにぎわいを彷彿させるとともに、「高瀬」と重なるところが多々ありました。それもそのはず、両町とも「肥後五か町」として城下町熊本に次ぐ特権が与えられていたのです。

見学でもっとも目を引いたのは東蔵・西蔵からなる藩の米蔵「外城蔵」。東蔵・西蔵はそれぞれ二百坪蔵・六十坪蔵といわれ、9棟からなる川尻御蔵(年貢米20万俵を収納)のうち唯一の現存施設。修復がなされて蔵を含む船着場跡一帯が国の指定史跡となっています。

外城蔵の規模の大きさを見るにつけ、永徳寺の高瀬御蔵・御茶屋が西南戦争で焼失したことが残念でなりません。(森 高浩)

今年の秋 「肥後五か町シンポジウム」 を計画中!



その大きさに驚かされる外城蔵 とじょうぐら